

今後の動き

今年度の三地域に加え、平成18年度からは、同じく連携型中高一貫教育が県立富岡高等学校と地元町村の中学校との間で始まります。サッカーを中心としたスポーツのスペシャリストのほか、福祉や健康生活を担う人材や国際的なコミュニケーション能力を備えた人材を育てる学科が

設置される予定です。

さらに平成19年度には、会津若松市に県立会津学鳳中学校が開校し、会津学鳳高等学校との「併設型」中高一貫教育がスタート。現在準備が進められています。

なお、今回始まる中高一貫教育は、県が平成15年3月に定めた「中高一貫教育実施計画」に基づいています。今回該当する中学二年生が高等学校を卒業する平成22年までを

計画の前期と位置づけ、それまでの成果を踏まえて後期につなげていく考えです。



中高一貫

Q&A

Q1 連携型中学校から

他の高等学校には進学できないのでしょうか?

A1 いいえ。連携型中学校の生徒の皆さんは、連携型高等学校を選んでいいし、他の高等学校を選んで構いません。もちろん連携している高等学校に進めば、六年間の継続的教育という中高一貫教育の利点を生かすことができます。

Q2 連携型中高一貫教育では、高校入試がなくなるのですか?

A2 なりません。連携型中学校から連携型高等学校へ進学する場合には「連携型入試」が行われます。連携型中学から連携していない高等学校へ進学する場合、または連携していない中学校から連携型高等学校へ進学する場合には今までどおりの入試があります。

Q3 連携型入試についてもっと詳しく教えてください。

A3 連携型入試の募集定員は高校全体の募集定員の30%を下限に決定します。実施時期は、I期選抜と同じ日か近接した日となります。選抜時には、連携している中学校から提出された調査書や面接の結果を資料として判断しますが、中学校の学習成果に関する課題研究レポートや基礎学力、実技などの適性検査の結果を加える場合もあり、詳しいことは今後学校ごとに決められます。

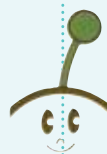
問 県庁県立学校グループ ☎024(521)7763



風薫る季節から始めるさやえんどう。マメ科に属するエンドウの一種で、若い莢を食べる種類がさやえんどう、成熟する前の実を食べる種類がグリーンピース、莢も実も食べられる種類がスナック

「さやえんどう」

野菜編



いいもの発見
うつくしま



エンドウです。

原産地は中央アジアから中近東と言われており、代表的な品種は「絹さやえんどう」です。ビタミンA・Cや食物繊維が豊富で、調理法はごく少量の塩でさっと茹でます。

本県は、作付面積、出荷量ともに全国第3位と全国有数の産地で、特に梁川町、保原町、霊山町で生産が盛んです。

福島の新鮮なさやえんどう食卓に彩りを添える鮮やかな緑と、旬の味をぜひお楽しみください。